

高校

不合格者が
出ないとダメ
なんですか？

すべての子どもの「学ぶ権利」を保障するため、公立高校の「定員」はもともと余裕をもって設定されています。だから、一定の高校が「定員」に満たない状態となるのは当然です。実際に鹿児島県や山形県では約半数の高校が「定員」を下回っています。大阪では、維新府政のもと学区が撤廃され、進学指導特色校が設置されるなど、競争強化、偏差値による高校の序列化がすすめられてきました。志願倍率による高校つぶしは、競争至上主義で下位に置かれた子どもたちを切り捨て、地域の高校で学びたいと願う子どもたちの「学ぶ権利」を奪うものです。

競争と序列化による 教育こわしは やめてください



小・中

テストテストの
競争で
子どもがゆがむ

維新府政による競争と序列化は小中学校でも強まっています。中学1～3年で始まったチャレンジテストは、たった1回のテストで高校入試の内申が決まる、通っている中学の平均点が低ければ「5」や「4」はつかないなど矛盾が噴出。学校現場はテスト対策に追われ子どもたちから悲鳴が上がっています。

公立中学の選択制が導入された大阪市では、中学ごとの進学先高校名・人数が公表され、さらに序列化が強まると不安が広がっています。

「テストの点数」や「進学実績」を最優先する施策が教育を大きくゆがめています。

「少子化」をチャンスに！

教育条件の改善こそ行わべき

→ 大阪の高校はつめこみ状態

そもそも大阪の府立高校は全国から突出して大規模校が多くなっており、教室が足りないなどつめこみ状態です。高校つぶしではなく、適正な学校規模に縮小することこそ必要です。

公立高校(全日制)
1学年あたりの
クラス数

大阪府 8.0
全国平均 6.1
鹿児島県 3.8

※府高教調べ

→ 全国では高校も35人学級に

全国では福井県や秋田県をはじめ高校でも少人数学級がすすんでいます。ところが大阪府は国の上限一杯の40人に据え置き。一人ひとりに行き届いた教育こそみんなの願いです。

